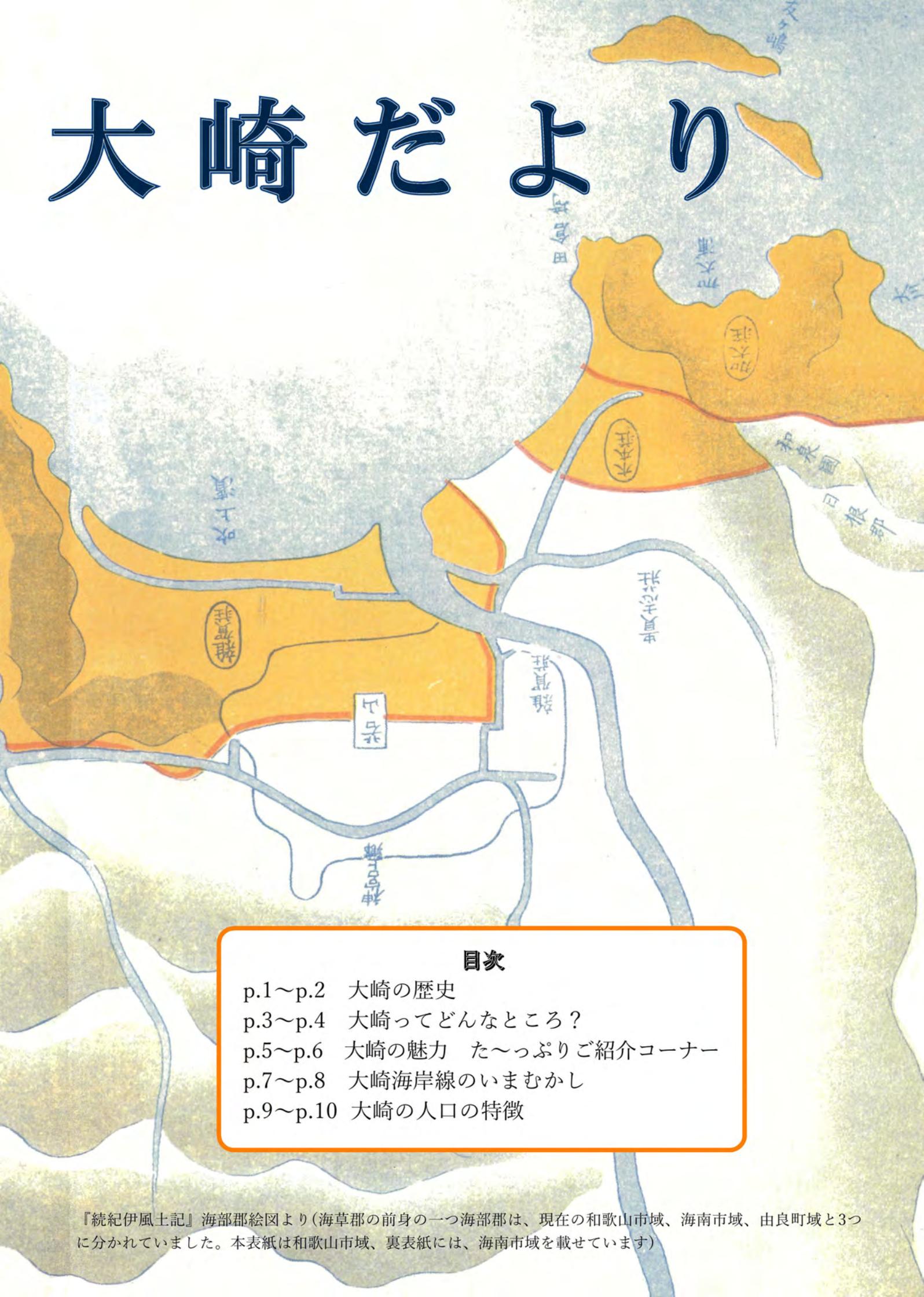


大崎だより



目次

- p.1～p.2 大崎の歴史
- p.3～p.4 大崎ってどんなところ？
- p.5～p.6 大崎の魅力 た～っぷりご紹介コーナー
- p.7～p.8 大崎海岸線のいまむかし
- p.9～p.10 大崎の人口の特徴

『続紀伊風土記』海部郡絵図より(海草郡の前身の一つ海部郡は、現在の和歌山市域、海南市域、由良町域と3つに分かれていました。本表紙は和歌山市域、裏表紙には、海南市域を載せています)

大崎の歴史

大崎ははるか昔から港として繁栄しました。日本中に物資を運ぶ拠点として、また避難港として、多くの船が出入りしていたようです。ここでは、そんな大崎の歴史について紹介します。(出典：海南市デジタルアーカイブ)

大崎村誌では、大崎は半農半漁の町であったとされています。ですが実際には、右の写真からも分かるように山に囲まれた地形であったため、農業ではあまり食べていけなかったようです。そのため出稼ぎや地下網という漁労組織、大崎独自の間銀制といったものが発達することとなりました。

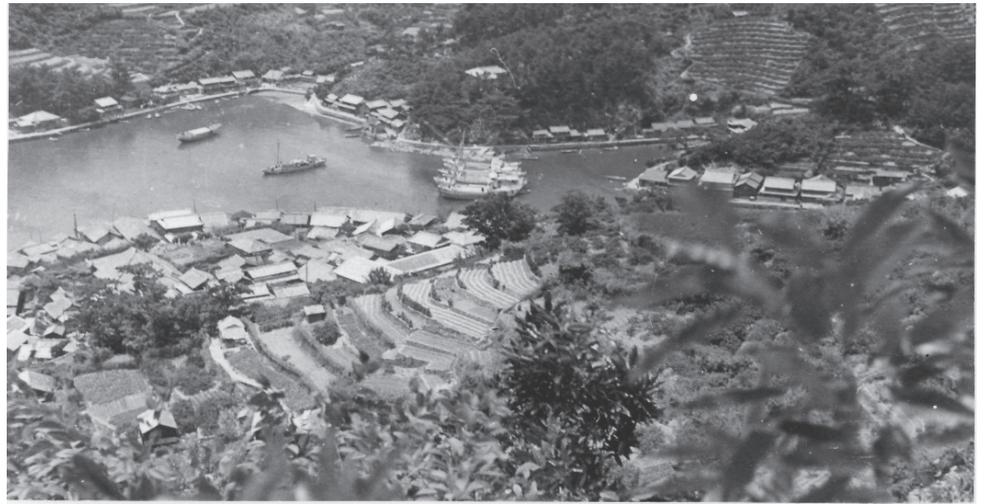


写真1 1960年前後撮影(大崎の方々所蔵)

01 | 出稼ぎ

大崎の人々は、熊野水軍、南北朝時代の倭寇、豊臣秀吉の朝鮮出兵など、海との関係が深く、優れた航海技術を持っていました。1637年以降は農業だけでは足りない生活の糧を求めて、関東への出稼ぎが始ま

ります。そしてボラ漁を行い、江戸市場へと卸していたそうです。1712年頃から盛んになった綿花栽培の肥料として干鰯の消費が増えたこと、生食用の魚の需要が増えたことも手伝い、村民の出稼ぎは続いていました。藩としてはこうした出稼

ぎは1年以内と定めていましたが、自然を相手にする漁や農業は不安定で、領民が安心して暮らせるとは言い難い世の中でした。そのため規制緩和がなされ、届け出により延長が可能となります。18世紀後半からは、関東の漁民の成長、農村におけ

る工場制手工業の発達によって、こういった出稼ぎは徐々に減少していくこととなりました。



Column01 | 万葉集

大崎の綺麗な海を見て、多くの人物が歌を詠みました。そのうちのひとつに、次のような歌があります。

大崎の 神の小浜は
せばけれど 百船人も
過ぐといわなくに

これは古代に流罪になった人物によって詠まれたとされています。大崎の浜は狭くても、たくさんの人がいて素通りするような場所ではないのに、と、自分が流罪のために大崎にとどまることができないことを嘆く気持ちが

込められていると考えられます。こう言った歌に詠まれていることから、かつての大崎は港町として栄えていたことが分かります。大崎には万葉句碑も設置されているので、訪れた際はぜひ当時の情景を想像してみてください。

02 | 地下網

地下網とは、村や集落ごとに作られる漁労組織のことを指します。大崎村誌の記載によると、毎年10月から翌年の2月にかけて個人の漁を禁じる

れていたそうです。各々で漁を行う代わりに、村や集落の人々が総出でひとつの網を引き揚げ、獲れた魚は家々に配分されました。

ボラの大群がやって来る時期に合わせて設定されていたため、いつも大

漁であったといわれています。





『紀伊続風土記』の「浜中荘図」より。
大崎の湾の大きさが印象的です。

03 | 間銀制

間銀制はこの地域特有の税制度でした。先述の通り大崎は田畑が少ないため、年貢や村費といった税負担が村民にとってとても大きいものであったそうです。

しかし港町として栄えていたため、船宿には多くの宿泊客が訪れ、酒が大量に消費されていました。そこで考えられたのが間銀制です。酒の販売業者の受負余銀、つまりは仕入れと販売の差額にあたる銀

を間銀と呼び、村民に再配布することで貢租の一部に充てるという仕組みです。明治時代以降は、酒だけでなく菓子や柑橘・漁業関係や海運関係にまで広げられ、大正の初めに廃止されるまで、相互扶

助的な生活が営まれていました。この時代には画期的な制度であったと考えられますが、再配布にあたっては必然的に富裕層への割合が多くなり、不満を抱く者も多かったそうです。



写真2 (出典：1頁と同じ)



1万分の1地形図 1921年測図

Colimn02 | 昔話

大崎には海にまつわる昔話がいくつも残されています。そのひとつに「海坊主」という話があります。海坊主が出るという噂を聞いた若者が、真偽を確かめようと海に出ました。しばらくすると本当に海坊主が現れ、「しゃ

くくれ」と話しかけてきたので試しに底抜けのしゃくを渡してみたところ、なんども船に水を入れる動作をし、満足した様子で帰っていったという間抜けな話です。また、「かんぱちダコ」という話では、釣り上手の勘八がクジラほどの大きなタコを見つけ、1日1本タ

コの脚を切り取っていく話です。タコの脚が残り2本となった朝、不思議なおばあさんから戻って来られなくなるぞと忠告されます。それでもいつも通り船を出してしまいました。すると突然荒天となり、大きなタコは残っていた2本の脚で勘八を海の底まで連れ去ってし

まったという話です。これらの話の若者は下の写真のような船に乗って海へ出て行ったのでしょうか。大崎で船に乗るときは、海坊主に底のついたしゃくを渡したり、大きなタコの脚を切り取ったりしないようにお気を付けてください。



写真3 (出典：1頁と同じ)



大崎ってどんなところ？



大崎は、和歌山県海南市の旧下津町の北西部、紀伊水道の突き出た半島にある集落です。

自然に恵まれた港町で、海運業、漁業、わかめ養殖業、みかん栽培が盛んです。

最寄りのJR加茂郷駅まで車で約8分、和歌山市中心部まで車で約40分、阪和自動車道の海南ICまで約20分のところにあります。



海がとても綺麗！（すべて独自撮影、以下同）

大崎の特徴は、なんと言っても自然豊かなところにあります。海と山にほどよく囲まれた景色は、見ていて心が洗われるようです。インスタ映え写真もたくさん撮れそうです。

のどかな港町で、住民たちはみんな家族のように仲が良いところも素敵です。顔を見たら、挨拶や世間話は当たり前で、収穫した魚や野菜を分け合ったりもするそう。地域コミュニティのつながりがしっかりと受け継がれている町です。

大崎を訪問した際、地域おこし協力隊の蘇意雲さんと「げんき大崎館」の山中誠也さんと魚田幸雄さんにお話を聞きました。ここからはおふたりの言葉を頂きながら大崎について紹介します。

大崎の自然災害について

（魚田さん談）雨はね、意外と心配なくてね、逆に大きな川がないから、ここにはね、浸水するという点に関してはそう怖くはないね。

もう70数年ここに住んでいるけど、水害っていうのはないんですよ。土砂崩れも、してもしれてるわね。どっちかというところ、風が怖い。

台風はね、第2室戸台風とかね。紀伊水道に入ってくる台風ですよ。あれが一番怖い。海で

うろうろされると、風と水の量がどんどん大きくなるので、ただの台風より大変ですね。

津波っていうのは、影響は受けるんやろうけど、あんまりない。過去の言い伝え、歴史でいうと、そんな東日本みたいな壊滅的なダメージは、受けたことがないらしいです。

高い波はね、この大崎には来ないんですわ。前の下津に行くんです。海南とかが怖いと思います。

一じゃあ、歴史的にはあんまり津波の被害というのは、ないん

ですか？

南海地震。戦後間もない頃にあった地震で、この辺で水位が上がって、私も沿岸部に住んでるんですけど、うちの家でちょうど床下くらい。だから、高潮みたいな感じ。



緑に囲まれた自然豊かなところ



元大崎小学校

げんき大崎館の成り立ち

(山中さん談) 13年前に、地域課題について考えようというワークショップがあり、それをきっかけに「げんき大崎」という団体を作ろうと思いました。始めは、色々なことが出来なかった。まちの良いところ探しのワークショップから始まって、そこから何が出来るだろうかという話しをしました。例えば、わかめや海産物が有名で、みんなに知って欲しいなと思い、イベントを手がけた「わかめやブルーベリーの摘み取り体験」。

元々は、大崎小学校の体育館などを借りたりして、イベントを行っていたが、廃校となってしまいました。

「げんき大崎」の拠点がなかったため、7年前に漁協倉庫を借りて、改装しました。2回に分けて、補助金をいただいて、それを資金としました。そのおかげで、しっかりとした調理場のある場所を確保でき、今年の2月で6周年を迎えました。土曜日が唯一の販売日なので、その

準備のために地域住民の方が来て下さっています。2階は、水・木・金・土・日に「かざまちカフェ」として営業しています。

皆さんの地域を盛り上げたいという気持ちで成り立っています。行政から、ハード面での支援はいただきましたが、経済的な面では、自分達で稼いでまわっています。

大崎小学校の跡地を上手く活用したいという案もありましたが、行政側から昭和30年から約50年経っているとのことで、危険だと判断され、早急に解体処理されることとなってしまいました。

運営補助の資金はありませんので自分達ので、運営していかなければなりません。だからこそ、自由にできます。それでも13年続けてこられました。

資源ゴミの回収を月に1回行い、それを業者に売り、活動資金としていました。ただ、地域の人に還元する事も重要であるため、地域のお祭りに出資を行ったりしていました。年間600

万円ほどの売り上げがあります。仕入れは案外安いです。運営に携わっている地域住民は、ボランティアで、平日は仕事があります。そこで、平日にも活動できるように、地域おこし協力隊という制度を取り入れました。



仕込み中



新鮮！



げんき大崎館の外観

(地域おこし協力隊：蘇さん談)

台湾出身で、19歳の時に日本に、まあ大阪なんですけど、留学、就職しました。

— どのような機会で大崎の町を知ったんですか？

最初はまあ、学校の先生の紹介とイベントですね。げんき大崎のイベントで、ブルーベリーの摘み取りと農作業を体験して、西川さんの家にホームステイさせてもらいました。それが1番のきっかけですね。

— 地域おこし協力隊は、3年で任期が終了しますが、その後はどうするんですか？

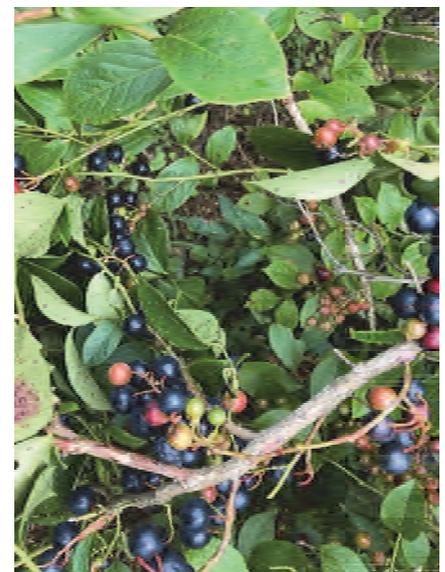
事業を立ち上げて、自分が今考えているのが、古民家・空き家ビジネスです。ここを住居兼オフィスにして、今はインターネットとかも必要になっているので、ここを住まいにして仕事もできるんじゃないかなと考えています。

— 移住されてきた方は、どんな仕事をしているんですか？

(山中さん談) どっかに勤めてはります。仕事を見つけられて、そこに。だから、仕事は外でされて、収入は外で。で、生活の場はここに。大阪から来られた方も、(山中さんと) 同世代なんやけど、大阪の仕事をやめられて、ここの生活がいいという風に思われたんだと思うんやけど、古い家を借りられて、そこでご夫婦で移住してこられました。ご主人は近くの会社に就職されて、そこでお給料を得て生活されている。時間のあるときは、畑を借りて野菜を作るとい

う生活をされているみたいです。

(蘇) 意雲ちゃんが教わっていた先生は、ここに6次産業研究所という場所を作って、家を借りて、そこでリフレッシュされているかな。元々は高槻を拠点にしている、2拠点目をここにされたそうです。



裏山で育てたブルーベリー

大崎の魅力 た〜っぷりご紹介コーナー！

1.土曜朝市



～開催時間～

- 朝どれ野菜
→9:00～なくなり次第終了
- 鮮魚・惣菜・弁当・タコ焼き
→10:00～なくなり次第終了



魅力Point♪

当日の朝に獲れた魚を販売している！大崎に暮らす奥さんたちの想いのこもった手料理！！

1人1人のお客さんに寄り添って、かざまちの方々が接客している姿が見られました。当日の朝に獲れた、お魚の紹介や調理方法について丁寧に説明していらっしゃいました。

お客さんの要望に応じて、お魚を捌いたり、調理したりしていて、素敵だと感じました！



魅力Point♪

地域の方々とのコミュニケーションを大切にしている！



地元の方(85歳)

地元が大崎で、ずっと大崎で暮らしています。

今は1人暮らしで、週に1度ほど娘が来てくれます。足が良くないので、送り迎えをしてもらったり、調理をしていただいたりするのは大変有り難いです。

一番の楽しみは、**みんなとおしゃべり**できることです。



かざまちの方

昔は、もっと多くのお店がありました。ですが、小学校が廃校になり、さらに人口減少に伴い、多くのお店が閉店していきました。それでも地元の方々との**繋がり**を大切にするために、多くの方々と協力して「かざまち館」を作り、週に1度**“土曜朝市”**を開催しています。

大崎の魅力 た〜っぷりご紹介コーナー！

2. ブルーベリー摘み取り体験 えびじゃこランチ



～開催日時～

7月17日(土) 11:00～

(費用：1,000円 未就学児：800円)

畑で摘みたて生のブルーベリーを楽しめます♪
園内は食べ放題！（ミニパックのお土産付き）

和歌山県海南市で生まれたブルーベリーを含めて
様々な種類のブルーベリーが無農薬で栽培されていま
した。

毎年、参加されているファミリーがいらっしやり、
子ども達がとても楽しんでいる姿が印象的でした。

魅力Point ♪

大崎の**魅力**を最大限に活かした企画！
老若男女問わず、楽しむことができる😊

※「えびじゃこ」とは…？

“小さい”えびという意味。当日の朝に獲れたえびじゃこ
をランチに使用しているため、鮮度が抜群！！

地元の食材にこだわり、地元の食材がたくさん入ったえ
びじゃこランチを食べさせていただきました。

そうめんのつゆも手作りであり、えびじゃこからとれた
出汁を使っていると教えてくださいました！

デザートには、摘み立てのブルーベリーをふんだんに使
った「ブルーベリーかき氷」をいただきました。シロップ
も手作りであり、大崎の魅力をたくさん感じることができ
ました♪



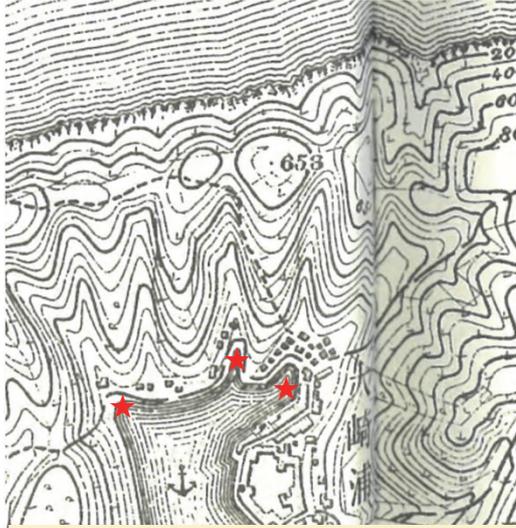
魅力Point ♪

手作り・地元の食材に、とことんこだわった
本格的な味が楽しめる！
地産地消であり、大崎の**魅力**が直に感じられる！！



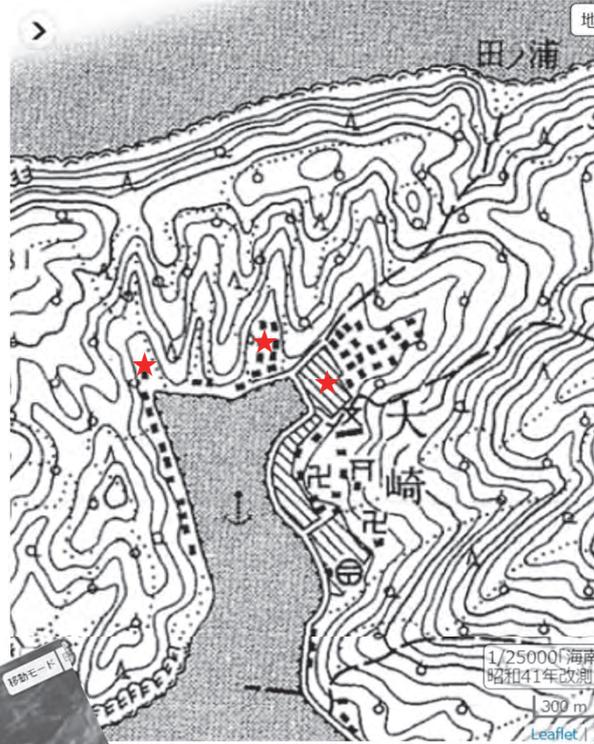
大崎海岸線のいまむかし：埋め立て地に注目を

1887年2万分の1 迅速・仮製図 和歌浦



地図7-1 大崎が正式測量図で描かれた一番古い地形図です。この2万分の1地形図は、当時この下の地図端より南は測量されなかったため、その点では偶然にもカバーされて描かれた地図です。3ヶ所の★の入り込みの湾に注目してください。

1966年2.5万分の1地形図 海南



地形図7-2 左の地図からほぼ80年後の地形図ですが、3ヶ所の★は埋め立てられ、家屋が建っているのがわかります。

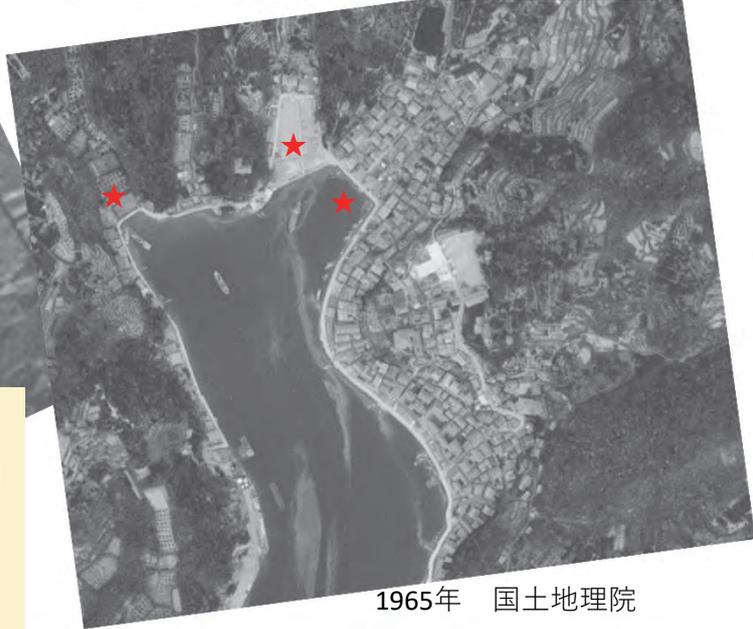
写真7-2(下) 3ヶ所の★が埋め立てられたことがよくわかります。特に真ん中の湾にはまだ書こうが建っていません。従って埋め立ては、この両空中写真の撮られた間に行われたことがわかります。

1948年9月22日
米軍撮影



写真7-1 これは米軍が戦後撮影したもので、空襲の効果などを見るために、1万分の1の精細な撮影で、都市部軍需関係の工場や港湾などあったところを撮影しています。この写真もこの上辺以北は撮影されていないので、ぎりぎり大崎の1948年の終戦直後の様子が見られます。3ヶ所の★の入り込みの湾に注目してください。まだ埋め立てられず存在しています。

1965年 国土地理院



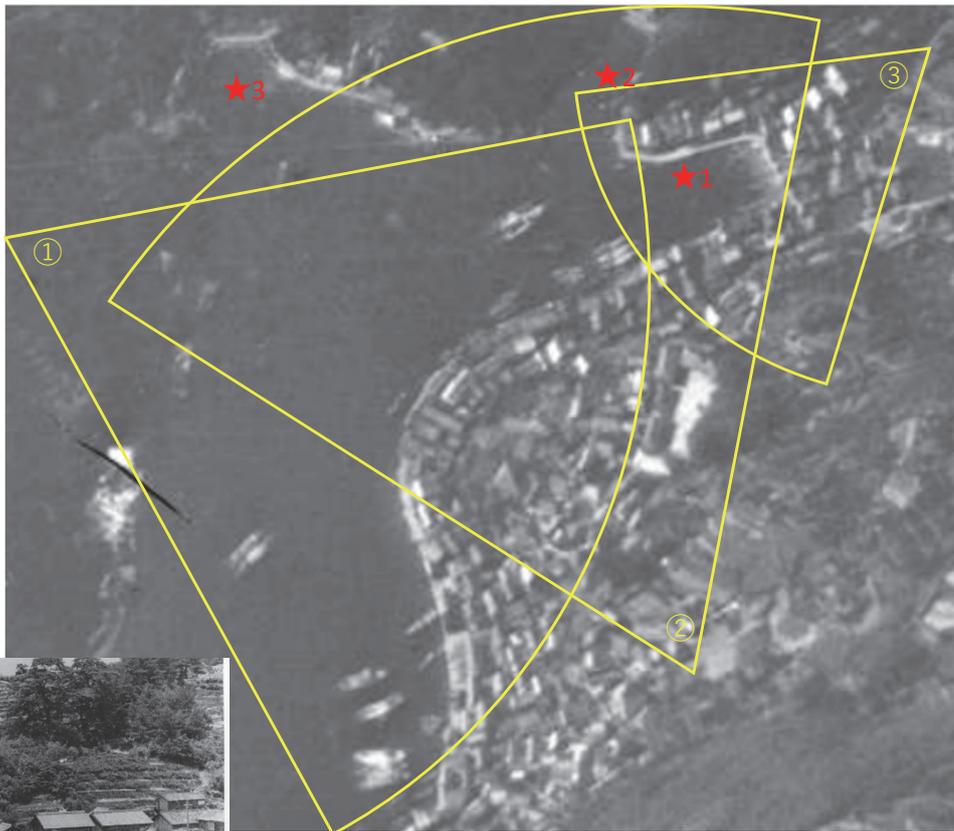
地図7-3 この地図は国土地理院が提供しているオープンデータの地図です。「地理院地図」と検索すれば、だれもが見ることができ、利用できます。

3ヶ所の★が埋め立てられた場所の現在の位置がこれでよくわかるかと思えます。げんき大崎館は、いちばん左(★)、西側に立地することが見て取れます。元大崎小学校の校舎も★で確認できます。



「地理院地図」より

大崎波止場の風景回顧



1948年9月22日
米軍撮影

★1～3の湾が埋め立てられる前の1948年の空中写真をもとに、埋め立て前の大崎を鳥瞰する写真の撮影アングルを示しました。
(写真は山中さんからご提供頂きました)

1965年撮影の空中写真では埋め立てが完了しており、埋め立て途上の写真もあることから、昭和30年代、1950年代後半に撮影されたのではないのでしょうか。



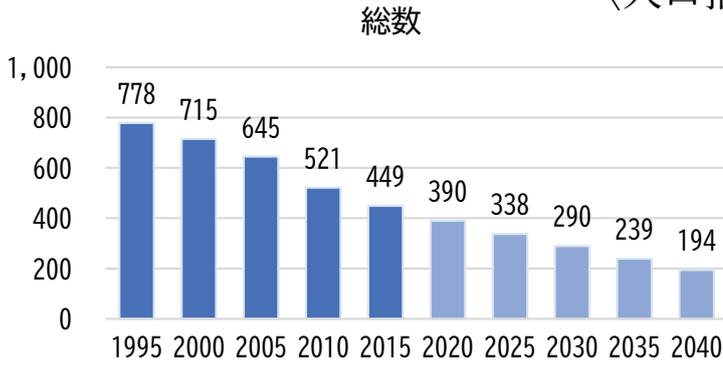
★1の湾埋め立て前↑と埋め立て途上↓の光景です。★2の湾に後ろの山から土砂を運び込むトロッコの走る導入路が設けられているようです。



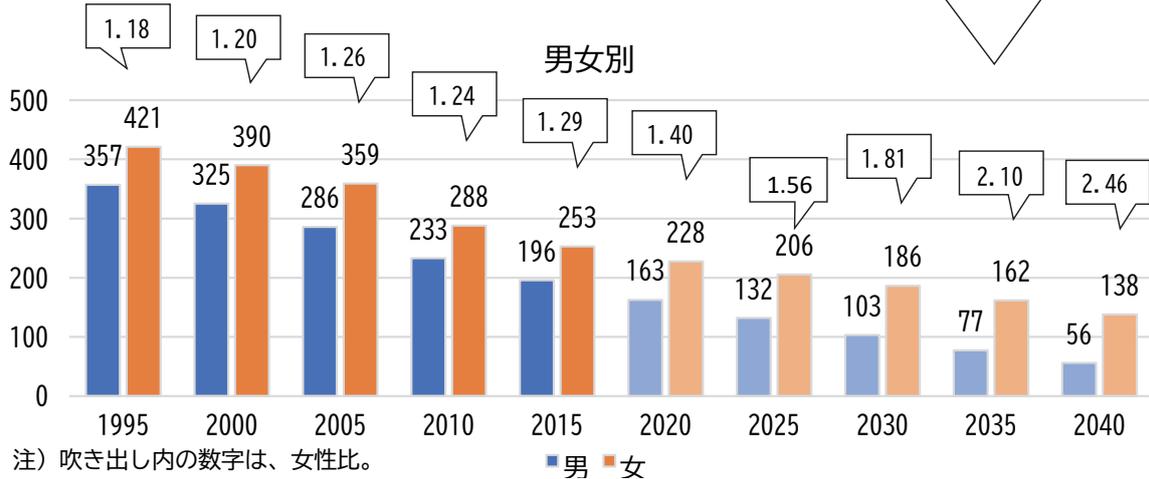
左から★1の湾の海上から取られた光景と、大敷網を引き揚げる光景、そして弁天島を背景に係留される漁船の光景

大崎の人口の特徴～人口カルテからの考察～

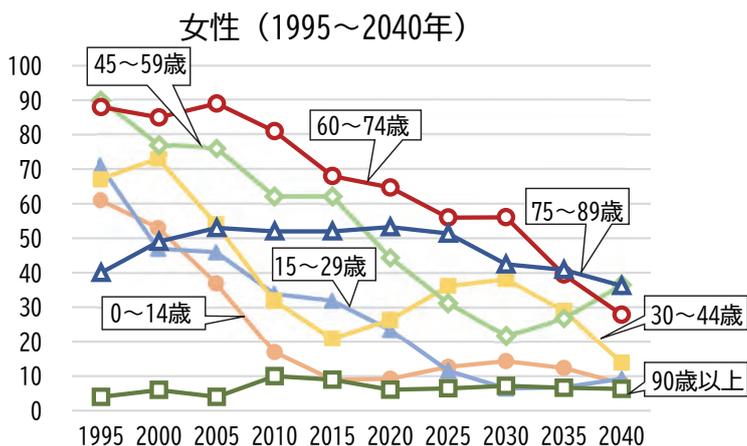
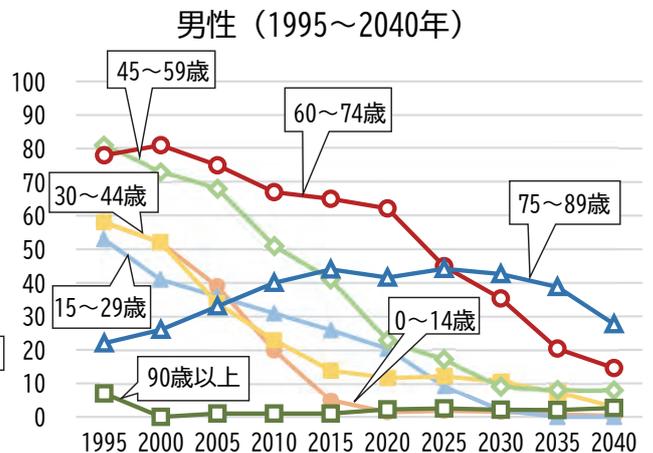
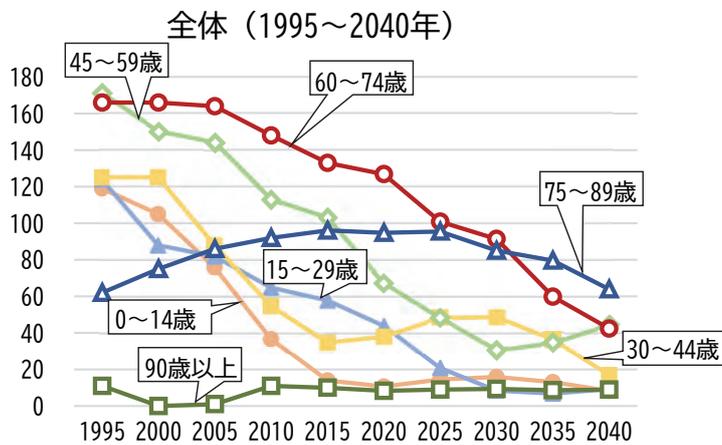
〈人口推移〉



推計人口も加えたこの2つのグラフからは、大崎の人口が減少傾向にあることがわかります。そして、大崎の住民は女性の方が多く、女性比はこれからどんどん高くなっていくと予想されます。

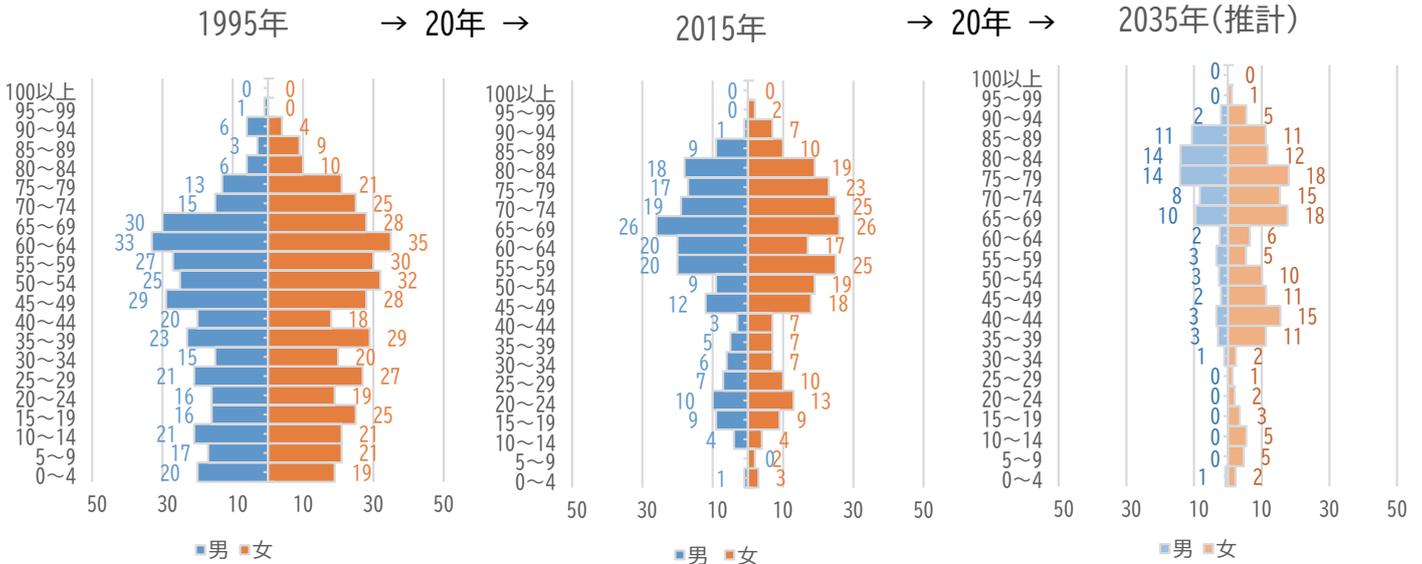


〈年代別人口推移〉



年代別人口推移と人口ピラミッドを見ると、大崎では少子高齢化がとてもしっかりと進んでいることがわかります。特に、0～14歳の人口の減少が顕著に見られます。この先、15～44歳の人口の減少も進むと考えられます。人口ピラミッドによれば、2040年になると、34歳以下の男性が大崎からいなくなると推計されています。

〈人口ピラミッド〉



〈出生年代別人口推移〉

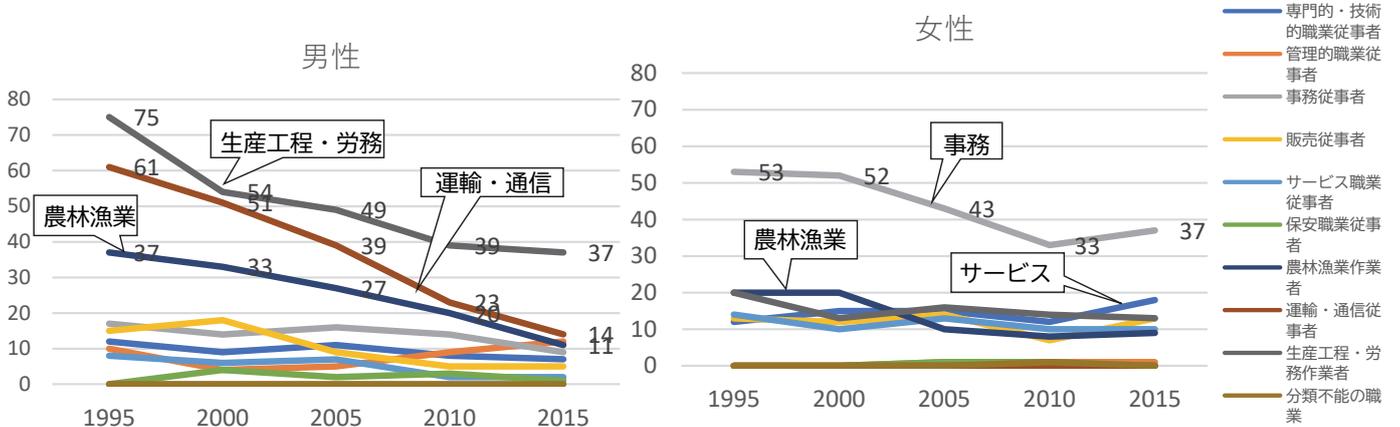
コーホート別・年齢期(5歳ごと)別 (1995年・2000年・2005年・2010年・2015年)

	0~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~99	
1916年~1920年生まれ																	34	30	18	11	2
1921年~1925年生まれ																	40	34	26	19	8
1926年~1930年生まれ																	58	51	42	32	19
1931年~1935年生まれ																	68	62	58	41	37
1936年~1940年生まれ																	57	53	54	48	40
1941年~1945年生まれ																	57	55	52	47	44
1946年~1950年生まれ																	57	56	54	53	52
1951年~1955年生まれ																	38	39	42	40	37
1956年~1960年生まれ																	52	51	48	45	45
1961年~1965年生まれ																	35	31	28	28	28
1966年~1970年生まれ																	48	43	37	31	30
1971年~1975年生まれ																	35	28	20	13	10
1976年~1980年生まれ																	42	41	30	21	11
1981年~1985年生まれ																	38	38	34	27	19
1986年~1990年生まれ																	38	38	34	16	17
1991年~1995年生まれ																	39	40	41	30	23
1996年~2000年生まれ																	27	26	26	18	
2001年~2005年生まれ																	9	9	8		
2006年~2010年生まれ																	2	2			
2011年~2015年生まれ																	4				

出生年(同い年)代別人口推移表を見ると、世代や年齢期によって減少傾向の大きさに違いがあることが分かります。赤枠(A)の同い年世代は、人口流出が少なく、地域で住み続けていると考えられます。

一方、青枠(B)の同い年世代は、進学や就職を機に大崎を出る人が多い世代だと考えられます。そして、紫枠(C)のデータは、30~44歳の人口減少が、主に少子化の急速な進行も反映しているのだというを示しています。

〈職業別人口推移〉



また、職別人口推移を男女別で比較すると、両者に異なる傾向が見られました。男性では、生産工程・労務作業、運輸・通信従事者と、力仕事に従事されている方の割合が大きい傾向でした。しかし、いずれの職業も人口が激減していることが分かります。この原因として、製油所の閉鎖や海運業からの撤退などがあると思われます。一方、女性では、圧倒的に事務従事者が多い結果になりました。

大崎浦

於保左賢

田畑高 二百五十二石二斗六升三合

家 數 百三十五軒

人 數 六百九十七人

方村の乾の方山を隔て二十一町にあり此地長峰の西の端にあり長峰高野の方より來り十餘里にして此に至て海面に突出て盡るを以て大崎の名あり其崎遠く西に突出て其内の灣曲をなして隋圓の如し南北長さ六町にして徑り東西二町人家其東北を廻て海岸に臨むを以て此浦に泊するもの大船といへども皆人家の軒に纜を繋けり善器といふへし因て常村田畑なく又大網をも作らず只入船の宿をなすを業とす按するに萬葉集天平十年戊寅石上麻呂卿配ニ土佐國ニ之時の歌の中に大崎乃神之小濱者雖小百船純毛過迹云莫國といふ歌あり此大崎の浦なるへし村の己の方山を隔て女郎といふ小名あり

先賢圖書に據りて土佐の地名とすれども此歌大和より紀伊を経て土佐へゆく船中の作なれば此地を過るときこの歌とおもはるゝなり且歌

『統紀伊風土記』の大崎紹介分です。古くから海運業や宿泊業が多いと記されています。



制作者

大阪市立大学CR副専攻

担当教員：水内俊雄・天野景太（アゴラセミナーII）

3回生：石黒陽菜 東海林久乃 野田夢乃